

平成18年度事務事業評価表

担当	市民福祉部	長寿課 養護老人ホーム	内線等	8004
----	-------	-------------	-----	------

事業コード		事務事業名	入所者の生活、指導・介助事業		
根拠法令等		老人福祉法	A法令	B条例	C規則 Dその他 Eなし

総合計画での位置付け

基本目標

施策名

健康で安心して暮らせるまちづくり	高齢者福祉
------------------	-------

事務事業の内容

対象（受益者）	養護老人ホームの
手 段	生活の指導や介助事業を行うことによって
想定する成果	快適で楽しい老後の入所生活ができる環境作りの提供をする。

事業の概要

項 目	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度計画
延入所者数 <small>（毎月入所者×12月）</small>	359人 30人内訳（市内21人） （市外 9人）	318人 27人内訳（市内18人） （市外 9人）	396人 33人内訳（市内24人） （市外 9人）

成果指標

成果指標名	入所充足率	-
成果指標の説明	延入所者数 / 延定員（600人）	-

事業の進捗状況（一般会計）

（千円）

		平成17年度決算	平成18年度決算	平成19年度予算
成果指標	計画	-	-	66.0%
	実績	59.8%	53.0%	-
成果指標	計画	-	-	-
	実績	-	-	-
事業費	事業費	4,333	5,299	6,230
	人件費	48,264	46,704	47,334
	(人数)	6.0	6.0	6.0
	合計	52,597	52,003	53,564
財源内訳	国	0	0	0
	県	479	0	0
	市債	0	0	0
	その他	1,852	2,803	3,128
	一般財源	50,266	49,200	50,436

事務事業内容の評価

項目	課内評価		部長評価		評価の説明(問題点)
	18評価	15評価	18評価	15評価	
達成度	2	3	2	3	定員50名の施設であるが、すでに築36年を経過している居室他の設備等の現状を考慮して予算措置は33人で要求している。当初定員より入所充足率は低下しているが、高齢化による認知症身体不自由の増加で生活介助等日々の生活を快適に暮らせるよう工夫努力してきた。
経済効率性	2	2	2	2	国基準の措置費の範囲内で、入所者の生活に必要な費用を効率よく配分した。
事務効率性	2	2	2	2	職員は国の「職員は配置基準」に基づいているが、入所者の高齢化・病弱化により、介助に多くの時間を要する。
必要性	2	2	2	2	入所理由に経済的困難な高齢者が多くなってきた。国の基準にもとづいて職員の配置運営すると、経済面で困難が生じているため運営面での今後の検討が必要である。
小計	8	9	8	9	
施策への貢献度	2	-	2	-	入所者の高齢化・病弱化により、手間がかかるようになっている。ボランティア・慰問者等の協力により、清掃・洗濯・繕い物奉仕で手助けをうけている。
合計	10	9	10	9	

達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	B	B	B	B	今後も、入所者に充実した生活、介助、指導に引き続き努力していきたい。
------	---	---	---	---	------------------------------------

総合評価は、A～Dまでの4段階評価

これまでに実施した改善点

改善等事項	経費の縮減額
・入所者の運動不足と健康のため、室内でも散歩ができるよう定期的に実施した。	

今後改善すべき点

<ul style="list-style-type: none"> ・平成18年は、食堂兼集会室を長机で畳の上で座っていたが、平成19年5月、4人掛けのテーブルと椅子に取り変えた。 ・高齢化の病弱化の進行防止の認知症の対策として、運動、又は体操を強化して行きたい。

平成20年度予算に反映する項目

--

今後の方向性

拡大、充実 ・ 見直し、縮小 ・ 現状維持 ・ 検討中

【各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載】

平成18年度事務事業評価表

担当	市民福祉部	長寿課 養護老人ホーム	内線等	8004
----	-------	-------------	-----	------

事業コード		事務事業名	施設の管理・事務事業				
根拠法令等	老人福祉法		A 法令	B 条例	C 規則	D その他	E なし

総合計画での位置付け

基本目標

施策名

健康で安心して暮らせるまちづくり	高齢者福祉
------------------	-------

事務事業の内容

対象（受益者）	養護老人ホームの
手 段	施設の管理や事務事業を行うことによって
想定する成果	快適で楽しい老後の入所生活ができる場の提供をする。

事業の概要

項 目	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度計画
延入所者数 （入退所人員）	359人 （入所2人・退所6人）	318人 （入所1人・退所1人）	396人

成果指標

成果指標名	入所充足率	-
成果指標の説明	延入所者数 / 延定員（600）	-

事業の進捗状況 （ 一般会計 ）

（千円）

		平成17年度決算	平成18年度決算	平成19年度予算
成果指標	計画	-	-	66.0%
	実績	59.0%	53.0%	-
成果指標	計画	-	-	-
	実績	-	-	-
事業費	事業費	10,889	8,547	8,532
	人件費	12,066	11,676	11,834
	(人数)	1.5	1.5	1.5
	合計	22,955	20,223	20,366
財源内訳	国	0	0	0
	県	129	0	0
	市債	0	0	0
	その他	4,611	4,005	4,469
	一般財源	18,215	16,218	15,897

事務事業内容の評価

項目	課内評価		部長評価		評価の説明(問題点)
	18評価	15評価	18評価	15評価	
達成度	2	2	2	2	施設の老朽化が目立ってきている。快適な日常生活が続けられるよう改善・修繕を継続してきている。
経済効率性	2	2	2	2	国基準の措置費の範囲内で効率よく予算配分し、快適な日常生活が過ごせるよう努力してきた。
事務効率性	2	2	2	2	職員は国の「職員配置基準」に基づき配置しているが、事務は、複雑化している。
必要性	-	1	-	2	高齢者福祉における社会的援助が必要な人への位置づけをしている。養護老人ホームとしてこれからの役割、機能的な運営を検討していく必要がある。
小計	6	7	6	8	
施策への貢献度	1	-	2	-	慰問・ボランティア・奉仕に来てくれる人から、生の声を聞く。
合計	7	7	8	8	

達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	B	B	B	B	養護老人ホームは、昭和46年開所(36年経過)し、老朽化が進み建替えの時期をむかえている。入所者が生きがいを持ちプライバシーの保護をしていくためにも、蒲郡市総合計画の施策を進めつつゆったりとくつろげる施設づくりを視野に加え検討整備していきたいと考える。
------	---	---	---	---	--

総合評価は、A～Dまでの4段階評価

これまでに実施した改善点

改善等事項	経費の縮減額
<ul style="list-style-type: none"> 平成18年度に、入所者の部屋を夏場を快適、涼しく過ごせるよう廊下側にも網戸を取り付けた。 平成18年度に、廊下の老朽化で土台の基礎が腐ってきた為、歩くと、へこみがあり、危険のため基礎をとりかえ、シートを張り代えた。 	

今後改善すべき点

<ul style="list-style-type: none"> 老齢化による対応策として、トイレ、浴室の水道蛇口を上下するだけで、出る、止るのレバーに取替えたい。

平成20年度予算に反映する項目

--

今後の方向性

拡大、充実 ・ 見直し、縮小 ・ 現状維持 ・ 検討中

【各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載】

平成18年度事務事業評価表

担当	市民福祉部	長寿課 養護老人ホーム	内線等	8004
----	-------	-------------	-----	------

事業コード		事務事業名	入所者の給食・栄養事業				
根拠法令等	老人福祉法		A 法令	B 条例	C 規則	D その他	E なし

総合計画での位置付け

基本目標

施策名

健康で安心して暮らせるまちづくり	高齢者福祉
------------------	-------

事務事業の内容

対象（受益者）	養護老人ホームの
手 段	入所者に食事のサービスを提供する事によって
想定する成果	入所者に喜ばれる食事の場を提供する。

事業の概要

項 目	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度計画
1日1人当たり平均単価	989円	934円	892円
市が示している1人当たり単価	810円	926円	892円
1日平均入所者数	29人	26人	31人

成果指標

成果指標名	単価達成度	-
成果指標の説明	1日1人当たりの平均単価 / 市が示している単価 × 100	-

事業の進捗状況（一般会計）

（千円）

		平成17年度決算	平成18年度決算	平成19年度予算
成果指標	計画	-	-	100.0%
	実績	122.0%	101.0%	-
成果指標	計画	-	-	-
	実績	-	-	-
事業費	事業費	24,871	22,594	24,411
	人件費	8,044	2,990	3,031
	(人数)	1.0	1.0	1.0
	合計	32,915	25,584	27,442
財源内訳	国	0	0	0
	県	331	0	0
	市債	0	0	0
	その他	10,538	11,014	12,290
	一般財源	22,046	14,570	15,152

事務事業内容の評価

項目	課内評価		部長評価		評価の説明（問題点）
	18評価	15評価	18評価	15評価	
達成度	2	2	2	2	日常生活の中で食事によせる関心が非常に高いため各自の健康保持、運動不足による肥満等の軽減の検討、又食べる事の楽しみを十分尊重し栄養バランスの取れた献立作りに励んできた。
経済効率性	3	3	2	2	食材の選択、効率化により賄費の削減を図りつつ豊かな食生活づくりに励んだ。又調理委託内容の変更（食数の減）等
事務効率性	2	2	2	2	自分で選ぶことのできる楽しみをつくるため複数献立と食事の選択性の取り組みを実施したところ自身の喫食量、献立を選ぶ事の楽しさ等が現れてきたと感じる。又、献立名をあげたり食事に関するコミュニケーションが従来よりも増してきた事と実感している。
必要性	3	3	2	3	食べることは、利用者の大きな楽しみであり施設生活の大きな位置を占めている。老年期の栄養管理を踏まえつつ、食事サービスを通して利用者の生活を支えていくためにも必要である。
小計	10	10	8	9	
施策への貢献度	1	-	2	-	行事等実施する際に食事に関する生の声を聞いている。
合計	11	10	10	9	

達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	B	B	B	B	献立の内容も多様化を求められ、高齢による病弱も増加中、通常の食事が不可能な治療食も必要となって高齢による運動不足等で生じる肥満の解消の検討（病床の原因）老年期の栄養管理又充実した老後の健康食生活のあり方を大きくとらえ、個々のコミュニケーションを大切にしてきた。
------	---	---	---	---	--

総合評価は、A～Dまでの4段階評価

これまでに実施した改善点

改善等事項	経費の縮減額
<ul style="list-style-type: none"> 給食関係納入業者に対して給食納入時に関する注意、各材料の新鮮度合、衛生管理面等の啓蒙を続け衛生知識の把握を呼びかけている。 非常災害時発生に対する対処として、非常災害時の食事方法、非常食品の見直しをしてきた。 食事提供する側において、種々の課題を給食委員会や職員のミーティングで検討し入所者に豊かで質の高い食事ができるよう食生活の改善に努力してきた。 	

今後改善すべき点

<ul style="list-style-type: none"> 調理室内の床面（コンクリートの整備）
--

平成20年度予算に反映する項目

--

今後の方向性

拡大、充実 ・ 見直し、縮小 ・ **現状維持** ・ 検討中

【各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載】

平成18年度事務事業評価表

担当	市民福祉部	長寿課 養護老人ホーム	内線等	8004
----	-------	-------------	-----	------

事業コード		事務事業名	入所者の看護・保健衛生事業				
根拠法令等		老人福祉法	A法令	B条例	C規則	Dその他	Eなし

総合計画での位置付け

基本目標

施策名

健康で安心して暮らせるまちづくり	高齢者福祉
------------------	-------

事務事業の内容

対象（受益者）	養護老人ホームの
手 段	入所者一人ひとりの健康を損なわないよう、過ごしやすい生活環境を整えていくことにより
想定する成果	一人ひとりの体力を把握し、個人にあった健康づくり、衛生管理面を取得させる。

事業の概要

項 目	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度計画
通院者数	1,199人	1,160人	1,200人
延入所者数	10,861人	9,666人	12,045人

成果指標

成果指標名	入所者受診率	-
成果指標の説明	延通院者数 / 延入所者数 × 100	-

事業の進捗状況（一般会計）

（千円）

		平成17年度決算	平成18年度決算	平成19年度予算
成果指標	計画	-	-	9.9%
	実績	11.0%	12.0%	-
成果指標	計画	-	-	-
	実績	-	-	-
事業費	事業費	3,557	4,446	4,895
	人件費	6,350	2,344	2,331
	(人数)	0.5	0.5	0.5
	合計	9,907	6,790	7,226
財源内訳	国	2,159	0	0
	県	92	0	0
	市債	0	0	0
	その他	1,518	2,803	2,458
	一般財源	6,138	8,338	8,646

事務事業内容の評価

項目	課内評価		部長評価		評価の説明（問題点）
	18評価	15評価	18評価	15評価	
達成度	2	2	2	2	入所者の健康状態を把握し、病弱者の早期発見に努め病弱者の介助・看護に努めた。
経済効率性	2	2	2	2	保健衛生面による施設内の環境作り、各管理棟の清掃等入所者が参加し保健予防及びそれらに係る経費の有効支出に努めた
事務効率性	2	2	2	2	看護師と寮母との業務調整を図ることにとり、介助通院者の付き添い手助け等スム－ズに運ぶことができた。
必要性	2	2	2	2	高齢・病弱化しているため看護・介助する手間が増加してきている。個々の健康状態を把握し早期発見に努めることが必要である。
小計	8	8	8	8	
施策への貢献度	1	-	2	-	奉仕による眼科・歯科検診・身体が健全に生活できるよう、ボランティアの慰問協力を得ている。嘱託医を民間医師に委託しているため、医師所属の病院との親交・交流が深まる。
合計	9	8	10	8	

達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	B	B	B	B	要介護者・有病者の増加に伴い、看護師の指示により、特に病気については適切な予防や対策に、一層の注意をもって対応するように努めた。
------	---	---	---	---	--

総合評価は、A～Dまでの4段階評価

これまでに実施した改善点

改善等事項	経費の縮減額
<ul style="list-style-type: none"> ・介護認定によりベッドの借用ができ、畳で起きることが困難な入所者が楽になった。 ・手薄消毒の徹底により、集団の感染症などの発生がみられなかった。 	

今後改善すべき点

高齢に伴う認知症、身体的不自由者の身体機能低下、病弱化が顕著になっている。このため身体的に安静できる環境整備を検討工夫していきたい。
--

平成20年度予算に反映する項目

段差の解消（トイレ・風呂・居室など）・清掃しやすい環境づくり 押入れや引き出しの工夫 ・ ベッドの導入（高齢者には、布団の上げ下ろしは困難、介助者には介助しやすい利点は廊下に多くものを置かない工夫 ・風呂場の改善（混合栓）・シャワートイレの増設 ・室内及び室外において散歩（歩行）できる工夫

今後の方向性

拡大、充実 ・ 見直し、縮小 ・ **現状維持** ・ 検討中

【各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載】